

2018年5月11日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

ブータン国電カマスタープラン 2040 策定プロジェクト
(開発計画調査型技術協力)
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2018年4月16日(月) 14:00～16:54
- ・ 場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、清水谷委員、鋤柄委員、原嶋委員
- ・ 議題：ブータン国電カマスタープラン 2040 策定プロジェクトに係るスコーピングについての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 回答表
 - 2) 別添 1；調査全体に係る共通事項
 - 3) 別添 2：既設発電所及び建設中発電所
 - 4) 別添 3：略語集
 - 5) 別添 4：本調査で検討する影響項目と調査項目
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010年4月)

全体会合 (第 90 回委員会)

- ・ 日時：2018年5月11日(金) 14:30～16:48
- ・ 場所：JICA 市ヶ谷 (2階 202A・B 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 小規模水力の開発の検討について DFR に記載すること。
2. 気候変動の影響（ヒマラヤの氷河、降雨パターン、洪水、森林被覆など）による包蔵水力への悪影響について既存文献等で調査し、その結果を記載すること。

代替案の検討

3. プロジェクト候補地絞り込みにおいて用いられた多基準分析（MCA）の評価項目と重みづけについて、どのような理由とプロセスで決定したのか DFR に記載すること。

環境配慮

4. ブータン国の保護区（コア、バッファ、多目的使用）のうちコアゾーンは候補地の選定から除外すること。バッファと多目的使用ゾーンについても、JICA ガイドラインに従って、除外することを原則とすること。
5. 同一の河川・水系内で複数の地点で候補地が選ばれる場合、水系単位での累積的な環境影響の評価すること。

社会配慮

6. 経済的・社会的に脆弱な人々が居住する場所、山岳地帯や森林部で限られた伝統的な資源に依存して暮らしている地域等で、深刻な負の影響が見込まれる場合は、極力水力開発選定の対象地域から除外すること。

ステークホルダー協議・情報公開社会配慮

7. ステークホルダー協議の参加者には地方行政代表と専門政府機関代表だけでなく影響を受ける人たちの声を反映できるグループ（NGO など）も含めること。

以上